

鎌倉年中行事

えびな・すえたか？

作者：海老名季高

成立：享徳3年(1454)または享徳5年(康正2年 1456)



解題

Keyword

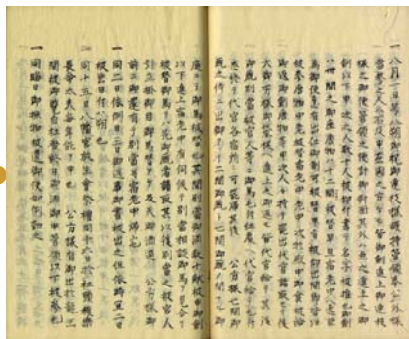
- 鎌倉府
- 「殿中以下年中行事」
- 「成氏年中行事」
- 鎌倉公方
- 足利成氏
- 永享の乱
- 古河公方
- 享徳の乱

室町幕府の東国統治機関である鎌倉府の行事・儀礼の先例を記録した故実書。

■ 成立と諸本

原本は失われ、この書名のほか『殿中以下年中行事』『成氏年中行事』などの題で写本が多く伝存

している。翻刻の底本に2系統があり、群書類従本は享徳3年(1454)の奥書をもち、全135か条から成る。『日本庶民生活史料集成』の底本である内閣文庫本(仮に「集成本」という)は、奥書に享徳5年とあり、77か条である。神奈川県立図書館蔵の写本は、外題が『鎌倉年中記録』、内題が『殿中以下年中行事之記録』で、45丁、74か条を収める。書写年代は不明であるが、奥書は享徳5年であり、集成本と同系統と思われる。



(写本)『鎌倉年中記録』八月一日の条

■ 作者

筆者の海老名季高は鎌倉公方・足利成氏(しげうじ)の家臣。記録の原形は海老名氏に伝わってきたもので、季高が現在みられるかたちにまとめたものと思われる。足利成氏は、永享の乱で敗死(1439)した父持氏の後継として宝徳元年(1449)鎌倉公方となるが、享徳3年(1454)関東管領・上杉憲忠を謀殺、幕府・上杉氏と戦うに至った。康正元年(1455)鎌倉を追われた成氏は下総国古河(こが)

に逃れ、古河公方と称して30年近く幕府と敵対を続けた(享徳の乱)。年号も京都の改元を無視し、享徳を文明期(1469-87)まで使用した。

内容

漢文体で書かれ、群書類従本は次の4つの部分から成る。①公方を中心に行う鎌倉府の1年間の行事、②元服など公方自身にかかわる不定期な儀式、③鎌倉府管内の武士間の礼法、特に文書・書状の礼儀④その他の雑多な規定。これに対して集成本は後から付加されたとみられる④の部分を欠いているが、研究者は集成本のかたちが本来の記録に近いものと考えている。室町中期の鎌倉府と東国武家社会の実態をうかがうことのできる貴重な史料とされている。



史料本文を読む

<写本>

- 『鎌倉年中記録』1冊 [K24. 4/23]

<翻刻本>

- ◆「殿中以下年中行事」(『群書類従』第22輯 武家部 巻408 [K08/17/1-22])
- ◆「鎌倉年中行事」佐藤博信校訂(『日本庶民生活史料集成』第23巻 三一書房 1981 [380. 8/8/23])



史料についてさらに知る－参考文献－

- ◆伊藤一美「旧内膳司浜島家蔵『鎌倉年中行事』について」(『鎌倉』(21) 鎌倉文化研究会 1973 [K05. 4/4])
- ◆田辺久子「年中行事にみる鎌倉府」(『神奈川県史研究』(49) 神奈川県 1982 [K21/18])
- ◆藤木久志「鎌倉公方の春－中世民俗誌としての『鎌倉年中行事』」(『六浦文化研究』(7) 六浦文化研究所 1997 [K20. 17/2/7])
- ◆山田邦明「鎌倉府の八朔」(『日本歴史』(630) 吉川弘文館 2000 [Z210. 05/3])
- ◆二木謙一「『鎌倉年中行事』にみる鎌倉府の儀礼」(『武家儀礼格式の研究』二木謙一著 吉川弘文館 2003 [210. 09MM/133])
- ◆阿部能久「『鎌倉年中行事』と関東公方」(『戦国期関東公方の研究』阿部能久著 思文閣出版 2006 (思文閣史学叢書) [K24/412])
- ◆佐藤博信「『殿中以下年中行事』に関する一考察」(『中世東国足利・北条氏の研究』佐藤博信著 岩田書院 2006 (中世史研究叢書7) [K24/413])
- ◆杉山一弥「『鎌倉年中行事』にみる鎌倉府の着装規範」(『日本家政学会誌』vol. 58(5) 日本家政学会 2007 [Z590/1])